

市政一新！

秦野市役所 32 年奉職

さとう伸一はバックキャスティング・ビジョン
（「未来のあるべき姿」を実現する思考・手法）
を持ち、夢と希望あふれる秦野を創造していく
ことを提案します！

1967 年 1 月 23 日鶴巻生まれ

大根小・大根中・日本大学藤沢高校・日本大学法学部
政治経済学科卒業・早稲田大学大学院公共経営研究科修士卒業



さとう伸一 54 才

発行者 市民がつくるはだの未来

代表 佐藤伸一

秦野市鶴巻南 1-9-16

TEL 080-2052-9205

ホームページはこちらから▶



さとう伸一通信 No.6 教育先進市 の実現で幸福の連鎖を

「教育先進市」の実現で「幸福の連鎖」を！

極めて低い教育予算

2021 年度全国学力調査では、秦野市の小中学生の学力は残念ながら全国平均や神奈川県の前平均以下です。これは子供達のせいでも先生方の責任でもありません。市政の責任です。

現代の日本は OECD の中で公的教育費の割合（対 GDP 比）が最低レベルです。

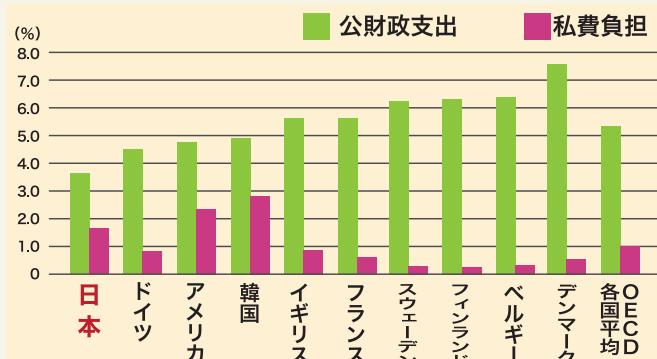
これは恥ずべきことであり、国の存亡にかかわってくる大問題です。しかも、総務省の決算統計に基づく令和元年度 1 人当たりの教育費は、類似団体の 4 万 370 円に対し、秦野市は 1 人当たり 3 万 1,324 円です。中学校給食費を含めると 3 万 4,860 円になりますが、**秦野市の教育予算は国内でも低い水準で、さらにその中身が大問題です。**

深刻な問題の一つは教育現場への「押しつけ」です。例えば待望の中学校給食が始まりましたが、現場の先生から「なぜこの時期に」と悲鳴が上がっています。短い昼食時間に準備や後片付けが加わり、黙食を指導せざるを得ない状況の中、先生方は益々多忙を極めています。

子供たちの成長にかかわる大問題！

さらに深刻なことは「おかずが足りない」「小学校の給食の方がずっと充実している」「育ち盛りの子には心配」など、子供達や保護者などから多くの声が寄せられていることです。進級時でも新学期でもない、政治イベントに合わせた昨年 12 月の開始を何よりも優先して始めたことが、教育現場に様々なひずみをもたらしています。

各国の GDP における教育支出割合



出典：OECD「図表でみる教育（Education at a Glance）OECD インディケーター（2014 年版）」

日本の公的教育費の割合は極めて低い。長期的には日本人の教育格差拡大、経済格差拡大、国の衰退の根本原因になる。ほとんどの政治家がその深刻さに気がついていない。



Column

かつて、幕末期の日本の識字率は70～86%。同時代の他国（フランスパリ10%未満、イギリス、ロンドン20%）に比較して極めて高い教育水準でした。その源泉は公的権力からの押しつけではなく、庶民のための教育機関「寺子屋」でした。



Twitterも更新中！



さとしんチャンネル
YouTube



オフィシャル
LINE

情報更新中！ぜひ、各種 SNS もご覧ください！

市内小学校と中学校の給食を比較

小学校（末広小）1食 256 円

中学校給食 1食 330 円

▲ 価格は約 1.3 倍



市が発表していること（中学校給食のカロリーと栄養素は小学校給食の 1.3 倍）が正しく提供されているなら、なぜ「小学校の給食の方がいい」「おかずが足りない」などの声が生徒から出てくるのでしょうか？さらに「市が報道用に準備した写真と実際に試食会にて生徒に提供されたものと明らかに量が違う」との声も出ています。市には苦情の実態と原因を公表する責任があります！

これは子供たちの成長にかかわる大問題です。「子供達の成長のため」を最優先に事業設計をしたうえで給食事業を行っていけば、このような事態には絶対になっていません！今提供されている中学校給食は一体誰のためなのでしょう。

仮に私が為政者の立場であったなら、「生徒達一人一人に必要かつ充実した食の提供をするために何をどうすべきか」を最優先に考え、教育現場や地域の人達と対話しながら計画・実行します。

為政者は、市民のため、子供達のため。その思いを最も強くもって市政にあたるべきです。

▶ 裏面にづく...



本当に、育ち盛りの生徒達に必要なカロリーと栄養素が提供されているのでしょうか？

さとう伸一には、子供達のための給食を提供するためのビジョンと政策があります！



現場の力を引き出すこと！

子供達の「生きる力と学力」を身につけるために何が必要か。それを理解しているのは権力者ではなく、現場で頑張っている教育者です。子供達の生きる力と学力向上のため、現場の先生方には「自分たちの裁量」でやりたいことが山ほどあるのです。

現状は教育予算の配分も中身も、為政者の思惑で決められています。先生方は雑務が益々増え、肝心の自己研鑽する時間ありません。このままだと教育格差が益々進みます。教育格差が貧困の連鎖を生みます。政治が教育に対して持つ役割は、「現場の教育力」に磨きをかけるための時間と予算を確保することです。

教育先進市の実現を！

さとう伸一は、現場の先生が地域の人達と共に考え、教育者の裁量で最良の教育ができる予算を確保することを提案します。教育本来の「あるべき姿」は子供たちの「教育を受ける権利」を権力者の都合や思惑から守る「四権分立」です。日本が「教育立国」になれば世界有数の「幸福大国」になります。



問題山積 現市政の現状分析と解決への道

市の参事職を倍増させるなど、一部幹部職員を優遇。
身を切る改革と行政改革が皆無
コロナ禍で苦しむ人への市独自の救済が希薄

「小学校の給食の方が充実している」多数の市民の声

年少人口の激減を計画しながら時代逆行ハコモノ行政へ回帰。
4年で借金 92 億円増加（前市長は借金 103 億円減少）の放漫財政

市は中学校給食の必要数が、現在の 4,517 食から 10 年後に
3,466 食に激減することを予測。どのようにして持続していくのか

少子高齢化を前提にしている市は、増大する市民福祉の
需要をどのようにしてまかなっていくのか

身を切る改革+抜本的な行政改革で
コロナ禍に苦しむ人への市独自の救済を！

中学校給食の仕組みを抜本的に見直し、
子供達のための給食実施を！

すべての市の事業に優先順位をつけ、
効果の低い事業廃止を！ハコモノに頼らず、
今ある資源を最大に活かす行政へ！

バックキャスティング・ビジョンからの
政策立案と実行

- 子育て・教育先進市の実現で地域福祉力の向上
- 若者を呼び込む魅力あるまちづくりを！



「子育て教育先進市」で住みたいまち No.1 へ

年少人口の具体的な目標を
設定し、具体策を実現して
いく過程の中で、地域を支
える若者たちが増え、地域
に活力が生まれてきます！

年少人口 (0 才～14 才) 令和 2 年実績 18,145 人

実現できる！
望ましい未来の姿



さとう伸一のビジョン

令和 12 年 20,000 人
令和 17 年 25,000 人

秦野市総合計画
(2030 計画)

15,291 人
現状考えなし

改革



成長
戦略

4 年に 1 度、1 千数百万円が支給されている市長の退職金は返上すべき！
市の特別職の報酬削減を！朝夕の市長公用車送迎廃止
市の職員 1 人 1 人のやる気を引き出す機構改革を！定年退職延長は廃止すべき
抜本的行財政改革で効果低い事業から見直し、廃止すべき

シティプロモーションで「はだの」を全国区に
DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した企業変革力、競争力、生産性向上を支援すべき
地元雇用を生む企業誘致を 電子地域通貨の活用で家計支援と地域経済循環を
若者が提案参加できるまちづくりを

改革と成長で財源を生み出し 教育先進市を実現 ➡ さらなる成長へ！

教育
+
子育て

中学校給食の改革・充実を！ 段階的に給食費を引き下げよ
(将来的に) 給食費の無料化により、義務教育の無償化実現を
学校地域の教育力を上げ、教育先進市を実現すべき
教育現場の裁量で質の高い教育ができる予算確保を ジェンダーレス制服の推進を
高校 3 年生 (18 才年度末) までの医療費を無料化すべき
子育て世帯 (0 歳児) に紙おむつ等の無料支給を 保育機能の充実により待機児童ゼロへ

住みたい
街へ...

市独自の経済対策、家計支援対策の推進を 感染第 6 波に備えた施設整備を
秦野赤十字病院等医療現場の課題解決を

改革+成長戦略の計画的持続
子育て教育先進市への道



住んで良かったまち
住みたいまち No.1 へ

